

JA全農えひめ情報

あひま

4

2016・April

■特集

JA全農・愛媛県本部「3か年計画」



引き戸を開ければ、ジャズが流れるおもてなしの空間が現れる



愛媛の酒蔵めぐり

10

せりょう 成龍酒造株式会社

代表銘柄 御代栄、伊予賀儀屋
 創業 1877年（明治10年）
 代表者 代表取締役社長 首藤 洋
 住所 西条市周布1301-1
 TEL 0898-68-8566

▲（右）「御代栄 蔵元の味 特別純米」。常温を基本に冷酒熱燗まで幅広く楽しめ、石鎚山のような懐の広い酒。（左）「伊予賀儀屋 純米大吟醸 しづく媛45 グリーンラベル」。酒造好適米・しづく媛を使い、優しい味と心地いい香が特徴の純米酒、最上級品

御代栄、伊予賀儀屋

人々が力を合わせて酒造りを「成」し、天と地を往来し幸せやパワーを与える「龍」にあやかり名付けられた「成龍酒造」は創業から約140年。根底には「酒は造り手を映す鏡。酒造りに必要な水・米・人のどれが欠けてもうまくいかない。例えば、米。農家の懸命な作業に感謝を忘れず、造り手は夢と心で、喜ばれる酒を造る」という信念が脈打っています。

「成龍酒造」には2つの銘柄があります。1つは代々の世の繁栄を願う「御代栄」、蔵の原点ともいえるべき変わらぬ味で地元へ愛され、県内を中心に販売しています。もう1つは当蔵の酒造業以前の職業、庄屋の米蔵の鍵を預かる鍵屋に由来する「伊予賀儀屋」です。2002年に誕生。生のような鮮度を追求する瓶火入生詰、酒本来の味にこだわる無濾過、熟成に応じて味・ノリ・旨味が増す熟成向上酒、そして料理を引き立てる食中酒、石鎚山系伏流水使用という5つのコンセプトで造る特定名称酒で、特約店制度により県内外へ出荷しています。それ以外に、地元の切り絵作家・塩崎剛さんのラベルが目をはく季節限定酒があります。

17年前、地元への感謝の気持ちから始まった春・秋1日限定の酒蔵開放イベントは今や県内外から約1,000人が集います。故郷の魅力を伝えつつ、日本酒に合う様々な料理を提案し笑顔が広がっていく、理想の日本酒の姿が垣間見えます。

めぐり〜ど

April 2016

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



窓を開けて「起きなさいよ」とお母さん。春霞や芽吹き匂いが部屋の中に流れ込んできます。食卓には春野菜やタケノコ料理が並び、そこかしこに春が充満しています。お兄ちゃんは小学校、妹は幼稚園へ、真新しい制服に袖を通して、新しい生活のスタートです。

さて、どんなお楽しみが待っているかな？ 元気よく頑張っていきましょう!!

●表紙：新生活、始動！
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.184

愛媛の酒蔵めぐり⑩〜成龍酒造(株)

2

〈特集〉JA全農・愛媛県本部「3か年計画」
〜より近く より深く より前へ〜

「農業者所得増大」「農業生産の拡大」への挑戦、
「地域活性化への貢献」に向けて取り組みます。

12

JA全農えひめ平成28年度機構改革&人事異動

13

JA全農えひめ平成28年度機構図&ライン配置

14

THE・ねっとわーく

15

統計BOX

16

ふるさと ESSAY VOL.252

馬鹿は死ななきゃ治らない

八木 健さん

18

TOPIC NEWS

20

READERS通信
NOW NOW COOKING
〈今月の素材〉乾椎茸

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画
<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimemosyoku/>
※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料
<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)
<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)
<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)
<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス
<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)
<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

より近く より深く より前へ

「農業者所得増大」「農業生産の拡大」への挑戦、 「地域活性化への貢献」に向けて取り組みます。

平成28年度からスタートするJA全農の「3か年事業計画」は、前3か年の3大重点事業施策および3つの事業戦略をさらに深化・拡充し、①新たな事業開発等に係る積極的な投資や企業との業務提携、②農業生産法人など大規模生産者や集落営農組織への対応強化、③リテール事業のさらなる拡充、④生産資材等の購買事業の競争力強化などに取り組み、農業者の所得増大や農業生産の拡大および地域の活性化に寄与する事業を展開します。

愛媛県本部では、第36回JA愛媛県大会の決議を踏まえ、「農業者所得増大チャレンジ事業」を新たに推し進め、元気な産地づくりを実践します。

JA全農 3か年計画

基本方向

(1) 基本戦略

JA全農は、前3か年（25～27年度）において、3大重点事業施策（①

元気な産地づくりと地域のくらしへの貢献、②国産農畜産物の販売力強化、③海外事業の積極展開）に取り組み、さらに27年度事業計画ではJAグループ自己改革のなかで明確化した新たな事業戦略（①プロダクトアウトからマーケットインへ事業を

転換、②生産から販売までのトータルコスト低減、③農産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応）を補強し、経済界との連携も含め、取り組みを進めました。
今次3か年計画では、前3か年の3大重点事業施策および3つの事業戦略をさらに深化・拡充し、①新たな事業開発等に係る積極的な投資や企業との業務提携、②農業生産法人など大規模生産者や集落営農組織へ

平成28～30年度3か年事業計画

平成25～27年度 3か年事業計画

取り巻く事業環境の変化

平成28～30年度 3か年事業計画

農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化

全農グループを挙げて取り組む 3大重点事業施策

1. 元気な産地づくりと
地域のくらしへの貢献

2. 国産農畜産物の販売力強化

3. 海外事業の積極展開

3大重点事業施策を 実現するための 経営基盤拡充

4. 将来のリスクや戦略的投資に
備えた経営基盤拡充

生産基盤

- ・生産者の高齢化が進行
- ・販売農家戸数・農業就業人口の減少
- ・集落営農・農業生産法人数の増加
- ・全畜種で飼養頭羽数・戸数が減少

消費

- ・国内消費は野菜・肉類は増加傾向にあるが、主食用米は大きく減少
- ・家計消費の支出金額は外食・調理食品の支出が上昇
- ・訪日外客数の急増など新たな需要が出現

農政

- 【TPP大筋合意】
 - ・重要5項目の輸入枠拡大や関税の引き下げ
- 【改正農協法関連】
 - ・農業所得の増大到最大限の配慮など事業目的規定の変更
 - ・株式会社への組織変更が可能
 - ・経済界との連携をはかり、農業・食品産業の発展と農家所得の向上に資する経済活動を積極的におこなうことが付帯決議
- 【米政策の見直し】
 - ・30年からの直接支払交付金の廃止および生産調整の見直しの予定

生産・流通・販売面でさらに深化・拡充した

重点事業施策

1. 持続可能な農業生産・農業経営づくりへの貢献

- 【プロダクトアウトからマーケットインへ事業を転換】
 - 消費者への直接販売や外食産業との連携などリテール事業の強化
 - 加工・業務用野菜の加工処理施設の設置など一次・二次加工機能の拡充
 - 訪日外客の増加によるインバウンド需要への対応強化
- 【生産から販売までのトータルコスト低減】
 - 省力・低コスト・生産性向上に資する営業関連技術の開発・実証・普及
 - 県域を越えた青果物の共同配送体制の構築による物流機能の強化
 - 畜産生産基盤の強化と生産性向上に向けた革新的な商品・技術の開発・普及
- 【農産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応】
 - 担い手ニーズに対応した専用商品・規格品の提案やJA資材店舗強化策の検討・実践
 - 高生産性水田輪作体系の確立に向けた提案・実証
 - 大規模施設園芸実証圃の品目拡大や実証した栽培方法の普及および産地づくりのための人材育成プランを実践

2. 海外事業の積極展開

- 海外マーケットのニーズに即した生鮮品・加工品などの輸出拡大や国産農畜産物・和食のPR拠点となるレストランの出店など、輸出相手国のニーズに応じた多様な取り組みを展開
- 他国の農協組織や海外サプライヤー等との関係強化による飼料・肥料原料の産地の多元化など購買力の維持・強化

3. 元気な地域社会づくりへの支援

- ライフライン店舗やコンパクトセルフSS等の設置支援、組合員ニーズにもとづく移動購買車の導入など事業提案の強化
- JA農産物直売所の集客力向上・売場活性化に向けた支援メニューの拡充、国産農畜産物販売拠点としての直売所併設型Aコープ店舗の出店拡大

の対応強化、③リテール事業のさらなる拡充、④生産資材等の購買事業の競争力強化などに取り組み、農業者の所得増大や農業生産の拡大および地域の活性化に寄与する事業を展開します。

具体的には、次のア～ウを重点事業施策とし、全農グループ全体でスピード感を持って実践していきます。また、その実践経過や成果を組織の内外に目に見える形でアピールする取り組みもあわせて進めます。

ア・持続可能な農業生産・農業経営づくりへの貢献

(ア)プロダクトアウトからマーケットインへ事業を転換

中食・外食など業務用需要の獲得に向け、実需者との直接契約・事前契約等の長期安定的な取引拡大に取り組むとともに、付加価値の高い米関連商品の開発・取扱拡大や、インターネット通販を活用した消費者への直接販売、外食産業との連携などリテール事業の拡大を進めます。

輸入野菜が一定のシェアを占める加工・業務用や家計消費向け需要に応じた国産野菜の販売拡大と生産振興をはかるとともに、加工処理施設の設定や加工メーカーとの提携など、一次・二次加工機能の拡充に取り組めます。

また、JA農産物直売所における食肉販売や各県での外食店舗の出店を進めるほか、今後も増加が見込まれる訪日外客の外食店舗の利用拡大や国産農畜産物の土産品販売などインバウンド需要への対応を強化します。

(イ)生産から販売までのトータルコスト低減

省力・低コスト・生産性向上に資する営農関連技術の開発・実証・普及、カントリーエレベーターなど共同利用施設の再編・統合支援や県域を越えた青果物の共同配送体制の構築による物流の合理化等を進めます。

また、上質肉生産技術の普及、および消費者が購入しやすい安価な和牛肉生産体系の実証・普及による生産基盤対策の強化や革新的な商品・技術の開発・普及による生産性の向上に取り組みます。

(ウ)農産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

競争力のある商品の開発・普及や担い手ニーズに対応した専用商品・規格品の提案、JA資材店舗強化策の検討・実践に取り組みます。

また、高生産性水田輪作体系の確立に向けた提案・実証、高収量・高収益をめざした大規模施設園芸実証圃の品目拡大や実証した栽培方法の

普及に取り組むとともに、産地づくりのための人材育成プランを実践します。

イ. 海外事業の積極展開

販売事業では、海外マーケットのニーズに即した生鮮品・加工品などの輸出拡大や国産農畜産物・和食のPR拠点となるレストランの展開など、輸出相手国のニーズに応じた多様な取り組みを進めます。

購買事業では、世界的な穀物需要の増加により戦略物資化する飼料・肥料原料の安定的な確保に向けて、他国の農協組織や海外サプライヤー等との関係強化を進め、産地の多元化をはかり、購買力の維持・強化に取り組みます。

ウ. 元気な地域社会づくりへの支援

地域のくらしの拠点であるライフライン店舗やコンパクトセルフSS等の設置支援や組合員ニーズにもとづく移動購買車の導入等の事業提案を強化します。

また、JA農産物直売所の集客力向上・売場活性化に向けた支援メニューの拡充や国産農畜産物販売拠点としての直売所併設型Aコープ店舗の出店拡大に取り組みます。

(2) 東日本大震災からの復興支援・風評被害の払拭

生産基盤の復旧、原発事故による風評被害の払拭に向けて、引き続き、国・県などの行政、他団体・機関と連携して、全農グループが一丸となり被災地のニーズに即した取り組みを実践します。

(3) 全農グループ全体としての取り組み

重点事業施策の実践に向けて、子会社を含めた全農グループ全体での戦略共有を強化し、事業運営・経営管理に取り組みます。

事業別実施具体策・行動計画

米穀農産事業

米の消費が減少するなか、中食・外食など業務用需要が伸長する状況をふまえ、販売面では、産地と実需者とのマッチング機能の強化や直接契約・事前契約などによる実需者との長期安定的な取引拡大に取り組めます。また、付加価値の高い米関連商品の開発・取扱拡大やパール卸の再編等による販売力強化をはかるとともに、インターネット通販等を活用した消費者直接販売の強化や外食

産業と提携した外食店舗の展開など
リテール事業の拡大に取り組みま
す。

生産・集荷面では、30年の米政策
転換を見据えるなか、需給と価格の
安定に向けて飼料用米への作付転換
に継続的に取り組むほか、主食用米
の集荷確保・担い手との関係強化に
向けて大規模生産者ニーズをふまえ
た集荷手法を拡充します。

麦類農産物では、国産需要の確
保に向けて、需要動向をふまえた生
産振興や単収向上に資する生産技術
支援等による安定供給体制の構築に
取り組みます。

園芸事業

重点卸売市場、グループ会社等と
連携した、実需者ニーズにもとづく
産地への生産提案や契約取引の拡大
を進めるとともに、とりわけ加工・
業務用や輸入品が一定のシェアを占
める家計消費向け生鮮野菜の産地育
成に取り組みます。

加工・業務用需要に応じた販売機
能の強化に向けて、加工処理施設の
設置や加工メーカーとの連携など一
次・二次加工機能の拡充をはかりま
す。また、消費者ニーズに基づく国
産青果物を原料とする加工品や野菜
等を原料としたパウダーに係る研究
および商品開発を進めます。

ドライバー不足など物流課題に対

して、トラック輸送から貨物・船舶
輸送等への転換や産地・消費地にお
けるストックポイントの設置など県
域を越えた共同配送体制の構築をは
かり、青果物物流の合理化に取り組
みます。

営農販売企画

農業生産の拡大に向けて、地中点
滴灌水システムや農業ICTなど省
力・低コスト・生産性向上に資する
営農関連技術の実証・普及に取り組
むほか、新たな栽培技術や品種等の
開発を進めます。また、水稲・畑作
物を全て本作物化した高生産性水田輪
作体系の提案・実証をすすめるとと
もに、飼料用米の本格生産と供給体
制の確立をはかります。

国産農畜産物の販売拡大に向け
て、全農グループ直販会社の販売力
強化や商談会の拡充をはかるほか、
海外の現地パートナーとの連携等に
よる玄米輸出の拡大や青果物の鮮度
保持可能な物流方式の構築など輸出
事業の強化に取り組みます。

また、TAC活動のレベルアップ
や産地づくりのための人材育成プ
ランを実践します。

生産資材事業

トータル生産コストの低減に向け
て、肥効調節型肥料や国内地域資源
活用銘柄など省力・低コスト商品の
開発・普及をはかるほか、県域を越

えた供給・購買体制の整備に取り組
み、競争力強化に向けた事業体制を
確立します。また、海外山元との関
係強化をはかるほか、現場課題に対
応した新規農薬の開発・権利取得や
新たな処理技術の研究・登録を進め
ます。

多様な担い手ニーズに対応した専
用商品の提案や栽培暦・予約注文書
の改善、およびJA資材店舗強化策
の検討・実践に取り組むとともに、
高収量・高収益をめざす大規模施設
園芸実証圃での栽培方法・技術の確
立・普及をはかります。また、水田
利用高度化に対応した大型高性能機
械の取扱強化および農機レンタルの
拡大に取り組むほか、総合コンサル
による共同利用施設の再編・統合提
案を進めます。

畜産事業

JA農産物直売所での食肉販売の
拡大や大都市圏等での外食店舗拡大
など消費者に直接訴求する販売事業
を拡充します。また、牛肉輸出国の
拡大や海外外食店舗の出店をすすめ
るほか、外食店舗や土産品販売店舗
を活用した訪日外客への国産畜産物
の販売拡大などインバウンド需要へ
の対応を強化します。

生産面では、ICT機器活用など
革新的な商品・技術の開発・普及を
進め、生産性向上と地域実態に応じ

表1 JA全農 3か年（28～30年度）取扱計画

(単位：億円)

事業	28年度	29年度	30年度
米穀農産事業	7,519	7,908	8,234
園芸事業	11,624	12,070	12,176
畜産事業	10,888	10,936	11,181
営農・生産資材事業	8,633	8,164	8,319
生活関連事業	8,024	8,003	7,984
合計	46,687	47,081	47,894

た畜種別の生産基盤対策を強化します。また、配合飼料の製造・物流の合理化等による価格海外子会社との連携による集荷基盤強化や海外農協組織等との提携による産地多元化など競争力のある飼料原料の安定確保に取り組みます。

「新たなJA生活事業の実践運動」を通じ、組合員ニーズの把握やモデ

生活関連事業

「新たなJA生活事業の実践運動」を通じ、組合員ニーズの把握やモデ

ルJAでの優良事例の積み上げをはかるとともに、JA生活店舗の業態転換や移動購買車の導入などライフライン対応の支援を強化します。また、JA農産物直売所の売場活性化に向けた付帯施設の提案など支援メニューの拡充や直売所併設型Aコープ店舗の出店拡大、商品力強化による全農ブランド商品の販売拡大に取り組みます。

燃料事業では、基幹フルSSのセルフ化などマスタープランの実践を促進するとともに、生産性向上に資する施設園芸向けガスヒートポンプ・光合成促進機等の導入および配送ロットの大型化や沿岸基地からの直接配送など配送の効率化による営農用燃料のコスト低減に取り組みます。

震災復興

東日本大震災で被災した農地や農業施設などの生産基盤の復旧に向け、農業者ニーズにもとづく営農支援や先進技術の普及に取り組みむとともに、営農指導体制強化を進めます。

原発事故による根強い風評被害が続く地域では、引き続き、需要拡大に向けた消費者・実需者の理解が得られる広報対策や提案活動に取り組みます。

事業運営・経営管理

コンプライアンス・リスク管理の

強化、広報活動活性化、経営基盤の拡充など、本会の事業展開を支援する管理業務を効率的に取り組みます。

経営計画

取扱計画

生産・流通・販売面でさらに深化・拡充した重点事業施策の取り組みを織り込み、取扱高は28年度4兆6、600億円、29年度4兆7、000億円、30年度4兆7、800億円を見込みます。

収支計画

当期剰余金は、重点事業施策の取り組みにより段階的に取扱高の増加を見込んでいますが、積極的な投資等をおこなうことから、28年度42億円、29年度32億円、30年度36億円の計画とします。

事業利益は、3か年とも黒字を維持し30年度で8億円とします。

剰余金処分計画

出資配当は収支計画をふまえ、各年度とも2%配当を計画します。

投資計画

コスト削減に向けた広域物流施設（米、生産資材など）や消費者接近型事業を拡充する販売・加工施設、技術の実証・普及や担い手の育成に向けた大規模施設園芸実証圃、元氣な地域社会づくりへの支援に資する

生活関連事業施設の取得などの投資を積極的に進め、3か年で750億円程度を計画します。また、購買力強化、輸出事業強化のための外部出資等を実施します。

要員計画

改正労働契約法への対応として有期雇用から無期雇用への身分変更を70名程度見込んだうえで、事業環境に対応した要員体制とする観点か

ら、27年度末の計画要員数7、850名から150名程度削減し、30年度末で7、700名程度とします。

愛媛県本部 3か年計画

最重点施策

愛媛県本部では、重点事業施策を基本に、第36回JA愛媛県大会でも決議された「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」への挑戦、「地域の活性化」への貢献に向けて、平成25年度より取り組んだ「トータルアグリード事業」を拡充・強化した「農業者所得増大チャレンジ事業」を新たに推し進め、中期3か年計画の着実な実践をはかります。

生産面では、最重点品目の生産拡大を中心に売れる農畜産物の産地育成、水田フル活用とトータルコストダウンの取り組みを推進し、農業者手取りの安定と担い手の確保・育成支援をはかり、生産基盤の維持・拡大をめざします。

流通・販売面では、企画販売・契

約販売など多元的販売の拡大に取り組み、広域選果体制の構築、消費宣伝活動などの積極的な展開を通じ、県域販売体制による販売力・ブランド力の向上をはかります。

購買面では、多様な農業者ニーズに対応した低コスト資材・省力技術の普及拡大や環境保全対応の強化をはかるとともに、JA総合物流体制の拡充を進め、さらなる物流の合理化と利便性の向上に取り組みます。また、生活関連事業を通じて、「県産農畜産物の販売拡大」、「環境に優しい」、「くらしの安全・安心」、「地域インフラ」を柱に、地域のくらしへの貢献に取り組みます。

耕種事業

(営農食糧部・園芸部・生産資材部)

JAグループ自己改革の最重点実施分野である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」をめざし、販売

品取扱高の拡大を共通目標に掲げるなか、JA・関係事業部門の連携強化による「農業者所得増大チャレンジ事業」を展開します。

特に重点事項として「マーケットイン(実需者ニーズ)にもとづく生産・販売事業方式への転換」「トータルコストの低減」「多様な農業者ニーズへの対応」の具現化に向け、JA・農業者への支援対策や県域機能の強化によるJA事業の補完・支援に取り組む、農家手取り最大化ならびに愛媛農業の振興に貢献していきます。

畜産事業

事業競争力ならびに生産基盤の強化をはかるため、新技術普及による生産性向上対策や休閑施設利用等による農場再編整備をすすめる、肉牛・肉豚生産者の所得向上に取り組まします。

また、系統ブランドの安定生産と品質向上につとめるとともに、大手量販店・料飲店とのマッチング販売推進や直営店舗運営による消費者へ

農業者所得増大チャレンジ事業の概要

販売方式の改革×生産性の向上－コストの低減＝農業者の所得増大⇒農業生産拡大

<p>マーケットインに基づく 生産・販売事業方式への転換 【販売品取扱高】476億円</p> <p>〈生産振興・産地づくり〉 ○農地のフル活用 ○重点品目拡大 ○新たな需要への対応</p> <p>〈販売事業の強化〉 ○共販量・企画販売・販路の拡大 ○知財活用による高付加価値化</p>	<p>トータルコスト低減の実績</p> <p>コスト低減＋生産性向上＋省力化</p> <p>〈生産流通コストの引き下げ〉 ○価格メリット創出と弾力的価格設定 ○適正施肥・低コスト資材の普及 ○広域物流・広域選果体制の確立</p> <p>〈生産性の向上〉 ○収量・品質向上・省力化技術・資材の普及</p>	<p>多様な農業者ニーズへの対応</p> <p>〈県域担い手サポートセンター〉 ○担い手総合支援 ○JAの産地づくり支援 ○JAの人材育成支援</p> <p>○出向く活動の部門連携強化 ○労働力支援体制の対応</p>
--	---	--

【対策要領による支援】①生産振興・担い手支援対策、②コスト低減対策
【県域機能強化による支援】①県域担い手サポートセンター設置、②県域での労働力支援体制の整備、③新規作物・重点品目・営農体系の実証、④機能性成分表示制度の活用、⑤広域集荷・選果体制確立の支援

<p>〈米麦〉にこまる・ハルヒメボシ ○水田フル活用／収量・品質向上対策 ○米の食味向上／○次世代品種の実証</p>	<p>〈肥料・農薬・園芸資材〉 ○低コスト肥料・農薬・ハウスの普及 ○肥料満車・農薬担い手直送の対応 ○値入ミックス・奨励金等の価格参入検討 ○土壌診断による土づくり・適正施肥 ○収量・品質向上・省力体系・資材の普及</p>	<p>〈農機〉 ○重点機種・型式普及と中古流通促進 ○農機の延命・効率化 ○作物別機械化一貫体系の提案</p>
<p>〈果実〉温州みかん・ゼスプリキウイG3 ○生産量維持／○ゼスプリG3栽培実証 ○企画販売・ギフト・輸出推進</p>	<p>〈段ボール〉 ○予約精度向上によるメリットの最大化 ○機能性段ボール等の企画提案</p>	<p>〈耕種事業共通〉 ○労働力支援体制の整備 ○食の安全・安心確保対策 ○6次産業化支援 ○JA・行政・関係機関との連携</p>
<p>〈野菜花卉〉玉ねぎ・里芋・レタス＋枝豆 ○レタス＋枝豆実証／○加工業務用拡大 ○東予地区里芋広域共選体制の確立</p>		

の直接訴求、地産地消に取り組みます。
生活事業
「地域の活性化」へ貢献するために、地域実態・組合員ニーズに対応した事業・品目の取扱い強化をはかり、くらし支援事業の提案と実践につとめます。

また、県内産を中心とした国産農畜産物の消費拡大をはかるため、地産地消の取り組みとネットシステムを活用した宅配事業や直販事業の拡大につとめ、くらしの安全・安心と健康への貢献に取り組みます。

併せて、環境関連事業や石油・ガス等エネルギーの効率的供給に取り組み、快適で環境にやさしい生活と、高齢者対応事業の研究に取り組み、豊かで暮らしやすい地域社会の実現に貢献します。

総合物流
広域物流センターを中心にJA総合物流を構築し、「営農と生活を守る物流」の整備とコスト低減による事業競争力の強化に取り組みます。

グループ会社
JAグループの会社として農業者・JA・消費者の期待に応えるよう、生産・加工・販売・購買・物流の各分野においてグループでの事業機能の向上をめざします。

また、愛媛県本部グループ会社全社の健全経営を確立し、愛媛農業の

振興支援に取り組みます。

事業別実施具体策

営農食糧部

- ① 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向けて、「農業者所得増大チャレンジ事業」の推進事務局として部門間連携とJAへの提案を積極的に進めます。
- ② 「県域担い手サポートセンター」の設置による担い手総合支援や地域生産振興の実践を担うJAのTAC活動および人材育成の支援に取り組みます。
- ③ 関係機関とも連携し県産農畜産物の付加価値増大・消費拡大に取り組めます。
- ④ 需給環境に応じた主食用米および主食以外の水田活用米穀、裏作・転作品目の作付けによる「水田フル活用」の推進をはかるとともに、生産資材部門との連携による省力栽培技術推進および収量・品質向上対策に取り組みトータルコストダウンをはかります。
- ⑤ (株)ひめライスとの連携を強化し、県域生販一貫体制にもとづく「ひめライス」ブランドの拡販と定着をはかるため、買取販売の強化と大口生産者へのフレコン集荷提案やTACとの同行推進により、県内需要に応える集荷量の確

保に取り組みます。

- ⑥ 「にこまる」を中心とした米の良食味栽培体系の確立およびはだか麦高品質品種「ハルヒメボシ」への品種転換をはかり「売れる米麦づくり」に取り組みます。

園芸部

- ① 自然災害や異常気象に左右されない生産量の安定維持をはかるため、基本栽培技術の励行を指導徹底します。特に、温州みかんは正品率・反収の向上対策、キウイは病害対策徹底等により生産基盤強化に取り組みます。また、県オリジナル品種は適地適作による推進拡大と品格統一によるブランド化に取り組みます。

- ② 市場流通を基本とした卸売会社とのパートナー化をはかるとともに、県行政と連携した輸出事業や加工需要など積極的な企画販売の取り組みを展開し販売力強化に取り組みます。

- ③ 果実の消費拡大・購入促進をはかるため、企画型販促等の店頭試食宣伝販売の充実、「オレンジロード」による果実の情報発信により消費者に効果的なPRに取り組みます。

- ④ 「愛媛チーム」としてマーケットイン（実需者ニーズ）に対応した販売強化のため、広域選果事業のモデル化による生産・販売・流

通の効率化・低コスト化をはかるとともに買付けを含めた販売提案と重点野菜及び加工業務需要に対応した産地基盤整備に取り組みます。

- ⑤ 消費拡大及び愛媛野菜のファンづくりに向け、対面型消費宣伝活動の強化と「えひめの食」企画と連携した情報発信、消費者への効果的な産地アピールに取り組みます。

- ⑥ 実需者ニーズに応じた新規アイテムの提案など企画販売の拡充に取り組みます。また、業務需要に対応した加工仕向けの拡大やリパック機能を活用した付加価値の高い商品提案により多角的な販売力強化に取り組みます。

畜産部

- ① 事業競争力強化をはかるため、JA西日本くみあい飼料(株)・JAえひめアイパックス(株)との連携を深め、肉牛ではブランド牛生産基盤の拡大をすすめるとともに、肉用牛センターを核としたCBS事業（キャトルブリーダーイングステーション）を展開し、和牛素牛生産増頭に取り組みます。

また、肉豚では多産系ハイコープ豚の導入をすすめ、多産に対応した飼養管理技術の普及につとめるなど生産性の向上に取り組みます。

- ② 畜産振興対策課を設置し、畜産クラスター事業や行政対応の支援、また、県内の休閑施設利用や畜舎増改築、規模拡大など、多様なニーズへの対応にスピード感をもって取り組みます。

- ③ 肉豚195千頭、肉牛3,3千頭の取り扱いを目標に、系統ブランドの安定生産と品質の向上につとめ、大手量販店・料飲店とのマッチング販売推進に取り組みます。

- ④ 系統ブランド伊予牛「絹の味」「ふれ愛・媛ポーク」の認知度向上と消費拡大に向け、生産者・JA・販売先・行政と連携し、消費宣伝活動に取り組みます。また直営店舗運営による消費者への直接訴求、地産地消の啓蒙活動に取り組みます。

生産資材部

- ① 物財費の削減、労働費の低減、生産性の向上によるトータルコスト低減に取り組み、低コスト・省力化に繋がる肥料農薬・農機・施設園芸資材・包装資材の開発・普及につとめ、農業者の所得増大をめざします。

② 肥料農薬事業においては、予約結集と購買店舗の活性化による農家対応力の向上をはかり、土壌診断や的確な施肥除技術にもとづく企画提案と、市場価格調査を踏まえた弾力的な価格設定に取り組

みます。

③ JA物流センターの機能強化につとめ、JAグループにおける低コスト供給体制を構築するため、関係組織との連携をはかり総合的な物流体制の整備に取り組みます。

④ 園芸資材事業においては、ハウス被覆資材の予約推進と低コスト資材の供給、および省力化技術の普及につとめ、施設園芸の振興をめざします。

⑤ 農機事業においては、新品事業と部品・中古・修理整備事業のバランスをはかり、効率的な事業運営体質の強化につとめ、JA農機事業の黒字化を進めます。また、部品事業は、西日本部品センターとの連携強化と業務の改善につとめ、更なるサービス向上と効率化の徹底に取り組みます。

⑥ 段ボール事業においては、系統結集による原紙仕入れ等購買力の発揮と「全農唯一の工場」の優位性を活かし、競争力強化と安定供給につとめます。また、多様化するニーズに対応した安全・安心で高品質な段ボール供給と、副資材の低コスト生産・供給体制の確立に取り組みます。

生活 部

① 「新たなJA生活事業の実践運動」を通じ、地域・組合員ニーズ

に即したJA生活事業の活性化をすすめ、ライフライン店舗の維持とJA生活店舗の収支改善につとめます。

② 県内産農畜産物消費拡大運動に積極的に取り組み、地域農業の振興に寄与するとともに、国産農畜産物を主原料とした「エコーコープマーク品」や「全農ブランド商品」の取扱い拡大をはかり、国産農畜産物の安全・安心を消費者にお届けします。

③ ネット販売・通販チャネルを活用したダイレクトマーケティング事業の拡大につとめます。

④ 協議会活動を通じ、葬祭関連用品の取扱い拡大と葬祭事業の運営改善・施行レベル向上の取り組み等、協同活動の実践強化に取り組み、JA葬祭事業の体制強化をはかります。

⑤ 県内産農畜産物販売拠点として、直売所にコンビニを併設した一体型店舗運営に取り組み、地産地消の取り組みと地域消費者の利便性向上につとめます。

⑥ 施設農住事業においては、施工代行方式による事業強化と拡充に取り組みます。施設事業は関係部署との連携をはかり、既存施設への診断・提案活動の強化を行い、事業領域の拡大につとめます。住宅事業は情報収集機能の強化をは

かり、リフォーム事業を柱に事業量の安定確保をめざします。

管理 部

① コンプライアンス意識の浸透・定着と従来の4大リスク（食品表示管理、現金管理、在庫管理、債権管理）に加え、強化するリスク項目（労働災害、法令違反、交通事故・交通違反、情報管理）を重点としたリスク管理に取り組み、コンプライアンス態勢の維持・強化をはかります。

② 事業部との事業検討会等を通じて、収支管理・投資管理・要員管理を強化し、事業計画の達成に取り組みます。また、グループ会社管理を継続し、健全経営の確立に向けた指導・支援に取り組みます。

③ JA意見交換会やJA巡回等を通じて、会員の意思を事業運営に取り入れ、満足度向上をはかります。

④ 事業開発課を設置し、第36回JA愛媛県大会で決議された最重要改革目標「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向けた新規事業を開発・展開します。

⑤ 広域物流センターの機能強化をはかるため、JAグループで低コスト供給体制を構築し、総合物流のさらなる整備・実践に取り組みます。

⑥ 各事業部門における事業施策の

表2 愛媛県本部 3か年(28~30年度)取扱高(総供給販売高)計画

(単位:億円)

事業名	年度	27年度計画	28年度計画	29年度計画	30年度計画
営農食糧事業		30	32	34	34
園芸事業		438	450	457	447
畜産事業		202	213	213	213
生産資材事業		178	132	129	130
生活関連事業		111	139	142	140
合計		959	966	974	963

⑦ 実現に向け、営業力・企画力向上のための人材育成と要員の適正配置をはかります。
 ⑦ J A・組合員に対し県本部グループ事業への理解向上と、広く消費者に対し県産農畜産物の消費拡大に向けた情報提供活動を展開します。

表3 グループ会社 3か年(28~30年度)売上高計画

(単位:百万円)

会社名	27年度計画	28年度計画	29年度計画	30年度計画
(株) えひめ飲料	23,377	23,170	23,170	23,170
J A えひめアイパックス(株)	4,084	3,917	4,054	4,064
J A えひめフレッシュフーズ(株)	3,484	3,518	3,506	3,515
(株) ひめライス	4,086	4,095	4,198	4,302
J A えひめエネルギー(株)	2,589	2,794	2,766	2,737
(株) えひめフーズ	798	785	789	810
J A えひめ物流(株)	7,070	6,865	7,022	7,065
合計	45,488	45,144	45,505	45,663

経営計画

取扱高計画

高齢化等による生産基盤の弱体化および生産資材や生活関連品の需要停滞の状況はあるものの、「農業者所得増大チャレンジ事業」の展開に

より、生産基盤の維持、産地育成の取り組みや多元的販売の体制強化をはかることにより、取扱高(総供給販売高)は、28年度966億円、29年度974億円、30年度963億円を見込みます。

収支計画

厳しい事業環境の中、①「農業者所得増大チャレンジ事業」の展開によるJ A・農業者への支援対策や県域機能の強化、②「愛媛チーム」力を発揮した県域販売体制の強化、③新技術普及等低コスト・省力化に繋がる資材の提案、④J A総合物流の構築による物流コストの低減、⑤生活関連品の普及拡大や新たな農畜産物販売店舗運営などの事業展開をはかり、当期利益は28年度54百万円、29年度は50百万円、30年度76百万円の計画とします。

投資計画

生産基盤維持を目的とした事業施設・農作業支援法人等に対する設備投資および出資を計画します。また、事業所の設備更新や施設老朽化対策、消費電力削減のための設備投資およびシステム更新のための情報システム開発を計画します。

要員計画

事業環境に対応した適正な要員体制をはかることとし、会内要員は28年度期首の187名から4名増加し、30年度末で191名とします。

平成28年度機構改革等について

J A全農えひめは、4月1日付けで平成28年度の機構改革を実施しました。

農業生産基盤の維持・拡大と水田フル活用への支援を強化するため、**食糧部を営農食糧部に改称**するとともに、営農販売部**営農振興課を営農支援課に改称**して**営農食糧部へ移管**しました。担い手の育成・支援に対応するため、営農支援課の事業所として**担い手サポートセンター**を設置しました。**営農販売部は園芸部に改称**しました。企画販売強化に向け、東京・大阪事業所を3課（果実課・野菜花卉課・直販課）の共通所管としました。

管理部に**事業開発課を新設**し、J Aグループ自己改革で明確化した事業戦略の新規事業開発や総合物流改革を推進します。また、県内畜産基盤の再構築とT P Pに対する農家の経営体質強化に向けて、畜産部に**畜産振興対策課を新設**しました。

J Aグリーンえひめは生活資材課の所管とし、J A全農えひめとグループ会社の農畜産物・商品の販売拠点として、農産物直売所とコンビニエンスストアの一体型店舗に転換して、「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」に**名称変更**しました。同店内の精肉部門は、畜産販売課の事業所「**全農のお肉屋さん**」として**直営化**し、J A全農えひめブランドの伊予牛「絹の味」と「ふれ愛・媛ポーク」、愛媛県ブランド牛「愛媛あかね和牛」などの直売・情報発信拠点として機能を強化します。

種豚生産業務の集約に伴い、**広見種豚増殖センターを廃止**しました。

施設農住課は、J Aの事業推進体制が生活事業と重複する機会が多いことから、一級建築士事務所とともに**生活部に移管**。なお、園芸資材事業は、事業推進の共通性から、肥料農薬課へ移管しました。

人事異動（平成28年4月1日付）※課長・審査役以上

氏名	新任部署	旧任部署
関岡 光昭	(審議) 副本部長 営農食糧・園芸・畜産・生産資材担当	(審議) 副本部長 食糧・営農販売・畜産・生産資材担当
中原 一憲	(監) 営農食糧部長	(監) 食糧部長
渡部 和光	(監) 園芸部長	(監) 営農販売部長
森田 久敏	(審) 総務課長	(審) 食糧生産課長 種子センター所長 事務取扱 酒米センター所長 事務取扱
塩崎 洋章	(審) 事業開発課長	(審) 本所 燃料部 四国石油事業所 愛媛推進課長
平岡 正行	(審) 営農支援課長 担い手サポートセンター長 事務取扱	(審) 営農振興課長
池田 益夫	(審) 食糧生産課長 種子センター所長 事務取扱 酒米センター所長 事務取扱	(審) 肥料農薬課長
松本 亮治	(副審) 直販課長	(副審) 果実課 (課長事故代行者)
重松 秀樹	(審) 東京事業所長	(審) 直販課長
石丸 保博	(審) 畜産振興対策課長	(副審) 畜産生産課 (課長事故代行者)
長尾 充博	(審) 肥料農薬課長	(副審) 肥料農薬課 (課長事故代行者)
大西 弘之	(審) 肥料農薬課 関西運送株式会社 中予地区肥料農薬物流センター 駐在	(審) 肥料農薬課 J Aえひめ物流株式会社 中予地区駐在所 駐在
矢野 貴之	(審) 段ボール工場製造課長 本所 営農・技術センター 生産資材研究室 段ボール愛媛分室室長 兼務	(審) 段ボール工場製造課長
得能 祐治	(審) 生活資材課長	(審) 総務課長
崎山 一誠	(審) 本所 燃料部 四国石油事業所 愛媛推進課長 松山東 S S 所長 事務取扱	(審) 生活資材課長
達川 青児	(監) 本所 グループ会社統括部 グループ会社監査課	(監) 株式会社ひめライス 出向
吉村 公一	(審) 本所 燃料部 燃料システム課	(審) 本所 燃料部 四国石油事業所 業務企画課
佐尾 英二	(審) 株式会社ひめライス出向	(審) 食糧生産課 (課長事故代行者)
宇都宮義人	(審) J Aえひめエネルギー株式会社 出向	(審) 本所 燃料部 四国石油事業所 愛媛推進課
井関 一男	(審) 愛媛県農業協同組合中央会 出向	(審) 企画課 事業改革専任課長

【表の見方】職能資格呼称等は略称表記しています。

(参事) = 参事役、(審議) = 審議役、(監) = 監理役、(審) = 審査役、(副審) = 副審査役

品名	規格	推進価格(税抜)	消費税	税込価格
えひめみかん・いよかんジュース	ケース (1ℓ×8本)	1,926	154	2,080
えひめつぶみかん・いよかんジュース	ケース (1ℓ×8本)	2,759	221	2,980
みかん・いよかんジュース(缶)	ケース (250g×30本)	2,241	179	2,420
愛媛の味わい柑橘100	ケース (1ℓ×8本)	1,963	157	2,120
愛媛の不知火50	ケース (1ℓ×6本)	2,000	160	2,160
えひめの柑橘と国産にんじん	ケース (1ℓ×8本)	2,380	190	2,570
愛媛の特煎茶	ケース (500ml×24本)	2,380	190	2,570

生活
資材課

THE

ねとわーく

「えひめみかん・いよかんジュース・お茶等消費拡大・愛用運動を展開！」

J Aグループ愛媛 茶等愛用運動」(J Aグループ愛媛は、今年も4月1日から、『えひめみかん・いよかんジュース・おひめ主催)を実施しています。

この運動は、県内産主要農畜産物の消費拡大により、地域農業の振興とともに、良質で安全な県産品の愛用を進め県民の健康増進をめざす「愛媛県産農畜産物加工品消費拡大運動方針」を受けて毎年取り組んでいるものです。

今年度は計35万ケースを目標に取り組みますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

◆今年度の変更点

今年度から新たに「えひめの柑橘と国産にんじん」を加えました。

また、全商品に「愛媛産には愛がある」のロゴを入れたほか、「えひめみかん・いよかんジュース」のラベルには、愛媛県のイメージアップキャラクター「みきゃん」のイラストを入れて愛媛産飲料を前面に打ち出しました。

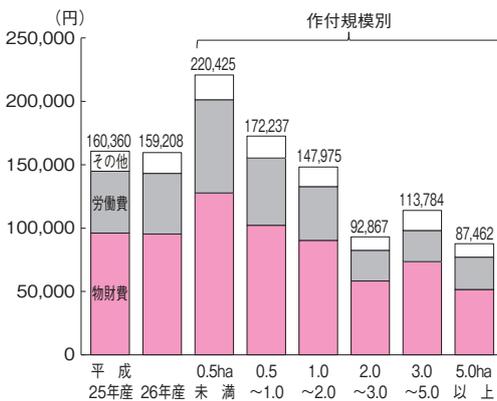
【商品特徴】

- ① えひめみかん・いよかんジュース
愛媛産の温州みかん和伊予柑の果汁をブレンドした飲みやすく、体にやさしい果汁100%ジュースです。
 - ② えひめつぶみかん・いよかんジュース
愛媛産の温州みかん和伊予柑の果汁にみかんの果粒(つぶつぶ)を加えた、飲む果物感覚の果実分100%ジュースです。
 - ③ 愛媛の味わい柑橘100
愛媛県産の不知火・いよかん、その他ブレンドした爽やかな味わいのジュースです。1ℓペットボトル。
 - ④ えひめの柑橘と国産にんじん
人参の甘さが生きた愛媛県産の柑橘と国産人参のやさしい味わいです。
 - ⑤ 愛媛の不知火50
愛媛県産「不知火」を使用した果汁50%飲料。濃厚な甘味とほのかな酸味が特徴です。1ℓペットボトル。
 - ⑥ 愛媛の特煎茶
愛媛県産茶葉を100%使用し、心地よい苦味とさっぱりした後味の緑茶です。食後やスポーツの後、焼酎等の緑茶割りとしてご利用いただけます。500mlペットボトル。
- いずれの商品も、例年と同様に数量限定で取り扱っています。運動期間中でも品切れの際には販売を終了しますので、早めのご注文をお願いします。
- 毎年県産品として県内外への贈答品として大変好評であり、今年も贈答需要に対応できるよう宅配も受けつけています。詳しくは最寄りのJ Aにお問い合わせください。

統計BOX

生産コスト削減で足腰の強い農業に — 平成26年産米生産費統計の結果から —

図1 10a当たり全算入生産費(中国四国)



平成26年産米の10a当たり全算入生産費は15万9,208円で、前年

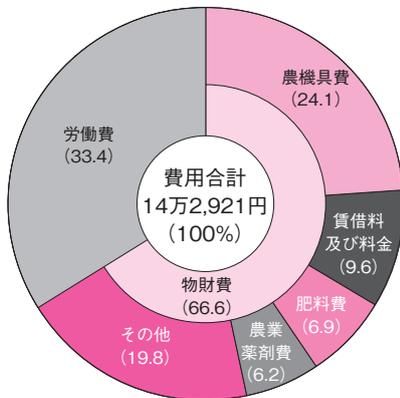
10a当たり全算入生産費は0.7%減少

今月は、中国四国地域の米の生産費についてみていきます。

米の生産のために要した費用の合計から副産物である稲わら、くず米の価額を控除した生産費に、「支払利子」と「支払地代」を加え、さらに擬制的に計算した「自己資本利子」と「自作地地代」を加えた額を資本利子・地代全額算入生産費(以下「全算入生産費」という。)といいます。

米 生産費統計は、米の生産コストを明らかにして生産コスト低減対策、生産対策、経営改善対策等の資料を整備する目的で作成されています。

図2 10a当たり主要費目の構成割合(中国四国)



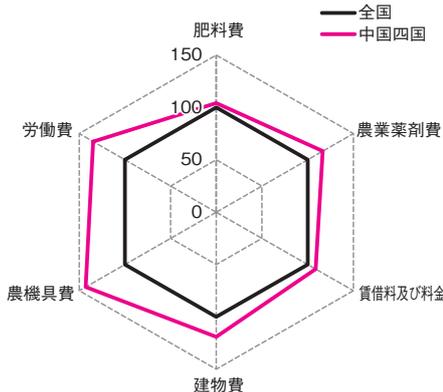
平成26年産米の10a当たり全算入生産費は15万9,208円で、前年

費用合計は14万2,921円で、うち物財費が9万5,250円、労働費が4万7,671円でした。主要費目の構成割合をみると、農機具費の占める割合が24.1%(3万4,456円)で最も高く、次いで賃借料及び料金9.6%(1万3,662円)、肥料費6.9%(9,901円)、農業薬剤費6.2%(8,890円)の順となっており、この4費目で費用合計の約半分を占めています(図2)。

農機具費が約4分の1を占める

また、作付規模別にみると、作付規模が大きいほど全算入生産費は少ない傾向にあり、規模拡大による費用対効果がみられます(図1)。

図3 10a当たり主要費目の比較(全国=100)



また、主要費目を全国平均を

農林水産省では、米政策改革の着実な推進として、需要に応じた生産を推進するため、水田活用の直接支払交付金による支援、中食・外食等のニーズに応じた生産と播種前契約、複数年契約等による安定取引の一層の推進、県産別、品種別等のきめ細かい需給・価格情報、販売進捗・在庫情報の提供等の環境整備を推進することとしています。水田農業の生産性を高め、競争力を強化していくためには、生産コストを削減することが重要です。

100とした指標でみると、中国四国地域はすべての費目で上回っており、特に農機具費や建物費、労働費は全国平均を大きく上回っています(図3)。これは、中国四国地域の大半が中山間地域に属し、作付規模が小さいことから、作業効率が悪くなるのが要因と考えられます。

中国四国農政局愛媛支局 統計チーム



馬鹿は死ななきや 治らない

前回、好きなことだけをやると書いたが、その好きなことは、自分が愉しむと同時に誰かが共感して楽しんでくれることが理想的である。私の好きなことは、結果としてそうなっていて嬉しく思っている。浪曲の虎造節保存会の活動も、その一つである。

【浪曲とは】浪曲はメロディーのついた語り物である。これは世界でも浪曲だけという大変に貴重な芸能で、明治末から昭和の十年代を頂点に、およそ百五十年間、演じられたものである。そのうち五十年間は芸能の頂点にあり、片田舎の町にも浪曲を演じる小屋があり、蓄音器が登場してからは一般家庭でも家族の誰かが熱狂的愛好者となった。私の生家は農家で、父親が浪曲好きだった。父は農作業の合間に煙草を吸うために家に戻ると、「おい、やってくれ」と蓄音器を指さす。私はまず広沢虎造をかける。私自身も一番好きだったからだ。何度も蓄音器を廻しているうち自然と覚えた。残念ながら、今の若者は浪曲というものを知らない。「馬鹿は死ななきや治らない」『寿司食いねえ』の台詞は知っていても、

広沢虎造を知らない。

【第二代広沢虎造】浪曲師の中でも良く知られた名人は、やはりなんと言っても第二代広沢虎造である。虎造がラジオ出演する時は、銭湯の男湯が空になったとか。昭和二十七年の芸能人の人気投票で、美空ひばりを抑えて一位になったという記事も残されている。浪曲は、敵討ちの物語が多いという理由でGHQから公演前には英訳された台本の提出を求められたり、浪曲の小屋が戦災で壊滅したりということが災いして戦後はすっかり下火になった。虎造は、昭和三十九年に六十五歳で脳梗塞で亡くなったが、その名調子を記憶にとどめ懐かしむのは七十五歳以上の方であろう。私自身、時折口ずさむ程度だったが、没後五十年となる頃に、虎造節の後継者のことが気になった。とにかくこの五十年、虎造節をラジオでもテレビでも聴くことがなかった。調べてみると虎造の没後、急遽三代目が誕生したものの、声質と節が違うために、何処で公演しても「偽もの、帰れ」と言われ、不幸なうちに没したとのこと。後継者も無く、ましてや保存会も

八木 健

KEN YAGI

俳人。伊予郡砥部町在住。1940（昭和15）年2月19日、静岡県吉田町生まれ。静岡県立榛原高校、日本大学芸術学部放送学科卒業後、NHKアナウンサーとして40年間勤務する。俳句との出会いは松山放送局時代。NHK「BS俳句王国」（1991～）では企画立案から加わり10年間司会を務める。NHKを定年退職後に本格的な俳句の道へ進む。現在は、滑稽俳句協会 会長、月刊誌「俳壇」滑稽俳壇 選者、日本農業新聞 俳壇&川柳 選者、愛媛CATV「八木健のCATV俳句」「川柳天国」主宰、俳句美術館 館長、愚陀佛庵「松風会」主宰、国重要文化財 萬水荘 館長、浪曲 虎造節保存会 創立名誉会長、日露音楽文化サークル「ペリョーザ」会長、国際俳句交流協会 会員等、多忙を極める。

- 滑稽俳句協会 <http://www.kokkeihaikuyoukai.net>
- 俳句美術館 <http://www.haikubijutsukan.com>
- 虎造節保存会 <http://www.kokkeihaikuyoukai.net/torazou>



ないことが判明した。そこで、このままでは浪曲文化はさることながら、話芸の至宝と言われた虎造の芸が消滅してしまうと危惧し、虎造の芸を顕彰し語り継ぐための活動を七年前に始めた。

【虎造節保存会】「保存会を作らなければ」と私が思ったのは、広沢虎造が特別な浪曲師だったからである。虎造の芸は、語り芸の最高峰なのである。誰にも真似の出来ない「芸」は、後世に伝えて残す価値のある文化財であると

考えた。虎造の演じる「石松三十石船道中」は、NHKでアナウンサーの養成に使われている。虎造節の魅力と難しさは「唸うなってみて初めてわかる」のである。保存会を作って虎造節を研究しよう。私は日本浪曲協会や虎造のご遺族にも相談したが、保存会設立には否定的だった。そこで、私は浪曲の小屋「木馬亭もばてい」がある東京の浅草に通い、曲師きょしに頼み込んで、虎造節のカラオケをつくり演者を増やすことを始めた。会を設立して以来、毎年、木馬亭で全

国大会を開催し、その全国大会で日本一になった浪曲師で名人大会を開き、保存会本部のある愛媛で発表会を開くなどしている。全国大会は今年、五月二十八日東京・木馬亭で、愛媛公演は七月三十一日、名演会は十月一日に松山市の国重要文化財・萬翠荘で開催する。

【完全日本の作成】虎造節保存会では、全国大会や公演会の他に、虎造の口演くわんした演目を聴き起して、台本を作成している。演じる際に台詞に間違いがあつてはならないし、後世に正確に語り継ぐために誰かがやらねばならない作業である。一曲が二十五分ほどだが、聴き起しには二十時間ほどかかる。虎造の演目は百種類ほど確認されており、現在、既に四十演目ほどを完成させている。

【話術を楽しむ】広沢虎造は、声を出すのに喉に力を入れたり張り上げたりしていない。ごく自然な発声をしている。ここが他の浪曲師と決定的に違うところである。普段の会話の声と同じなのである。「腹」に力を入れるのではなく、むしろ胸に響かせる。体に共鳴させている。ここに、「良い声」「心地よい声」の秘密がある。もう一つ、虎造の大きな特徴は、息が長いことである。大きく張るような無理な発声をしていないから、その分、息長く語ることが出来る。日本語は、抑揚と間で、強調すべき部分を伝える。そのためには息が長いことが必要なのである。このことも虎造節を唸うなってみて分かったことである。

●「えひめ米品質向上推進大会」

愛媛県産米の品質向上と「にこまる」の特A獲得に向けて！

愛媛県米麦振興協会とJA愛媛米麦生産者組織協議会などは、3月3日、「えひめ米品質向上推進大会」を開きました。

大会には、県内の米生産の持続的発展に向けた取り組みを奨励し、生産者をはじめ関係機関・団体が一体となって需要に即した米づくりとえひめ米の品質向上を図ることを目的に、毎年開催しており、JAや生産者・行政など関係者約90人が出席しました。

大会では、愛媛県産米のさらなる品質向上・高品質生産につなげようと、JA全農えひめ食糧生産課が「平成28年度産米作付計画の基本的考え方」を示すとともに、「にこまる」の特A獲得に向けた栽培法の説明や記念講演がありました。

また、「平成27年度愛媛県良質米・麦作・大豆共励会」表彰式が行われました。「コシヒカリ・あきたこまち」部門に5農家、「ヒノヒカリ・愛のゆめ・にこまる」部門に9農家の出品があり、最優秀賞（愛媛県知事賞）は、「農家の部 コシヒカリ・あきたこまち部門」の末光厚志さん（JA松山市）が受賞しました。

麦作共励会には7農家・4集団の出品があり、「農家の部」で井上雅貴さん（JA西条）、集団の部で農事組合法人福みのり組合（山内義雄代表・JA周桑）が最優秀賞を受賞。井上さんは27年度の全国麦作共励会で日本農業新聞会長賞、

農事組合法人福みのり組合は同共励会中国四国ブロック審査会で全国米麦改良協会会長賞を受賞しています。

その他の受賞者は次の皆さん（敬称略・カッコはJA名・市町名）。

◆良質米共励会【農家の部「コシヒカリ・あきたこまち」部門】▽優秀賞＝石田一浩（ひがしうわ）▽優良賞＝八束理恵（松山市）、宮内明治（同）【農家の部「ヒノヒカリ・愛のゆめ・にこまる」部門】▽優秀賞＝清水壯六（うま）、高市成一（えひめ中央）▽優良賞＝河渕正敏（周桑）、武田巍（同）、大西薫一（松山市）

◆麦作共励会【農家の部】▽優秀賞＝岡田義久（周桑）、河野昌博（ひがしうわ）【集団の部】▽優秀賞＝農事組合法人且之上集団（山内一晃代表・周桑）、郷内生産組合（岩元幸夫代表・ひがしうわ）

◆大豆共励会【集団の部】▽最優秀賞＝農事組合法人吉田（鈴鹿清重代表・周桑）▽優秀賞＝農事組合法人妙口原生産組合（赤堀保代表・同）、(有)エイ・コム・エス（高橋正代表・同）



▲県知事賞を受賞した末光さん

●出向く女性営農職員研修会

女性目線で特産品を活かした加工品開発を

JA全農えひめは、2月29日四国中央市内で、JA女性営農職員の目線で営農活動を強化しようと、「出向く女性営農職員研修会」を開きました。

同研修会は、昨年に続き2回目。県内5JAから女性のTAC（地域農業の担い手に出向くJA担当者）や営農指導員など6人が参加しました。

参加者は、サトイモのジャムや玄米ポン菓子などの加工品づくりに取り組む鈴木綾子さん（JAうま管内）の報告を踏まえて、「地域特産

品を活かした加工品開発」をテーマに、2班に分かれて意見を出し合い、企画を立案。「JAの加工品を県内で集約し、販売してはどうか」「生果の消費量が落ち込んでいる柿をドライフルーツやスイーツとして直売所や県外アンテナショップで販売してはどうか」などと発表しました。



●JA愛媛果樹技術指導員会 果樹技術研修会

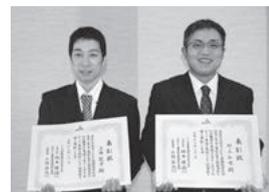
28年産果樹の生産対策などを協議

JA愛媛果樹技術指導員会は、3月1日、松山市のJAえひめ中央大会議室で、果樹技術研修会を開きました。

研修会には、県内JAの果樹技術員のほか県・果樹研究センター関係者などが出席。研修会に先立ち、JA愛媛果樹技術指導員会名誉会長賞の表彰が行われ、上田敏彦さん（JAえひめ中央）と村上和也さん（JAおちいまばり）が表彰されました。

研修会では、27年産主要果樹の販売情勢や生

産総括、28年産の生産対策及び病害虫の発生情報などについて報告・協議するとともに、肥料農薬情勢や愛媛県果樹振興計画案の骨子、果樹関係予算等について情報提供がありました。



▲名誉会長賞を受賞した上田さん(左)と村上さん

●ひめライス無洗米キャンペーン抽選会

キャンペーン応募数と無洗米販売数量が増加！

㈱ひめライスは、3月8日、松前町の本社で、伊予牛「絹の味」焼き肉セットなどが当たる無洗米キャンペーン「サッ ジャッ ポンであらうまい！」の抽選会を行い、松田一人社長らが、7,400通の応募の中から当選者600人を選びました。

同キャンペーンは、12月21日から2月29日まで実施。期間中はテレビCM放映を通じて、無洗米の「洗わずに炊ける便利さ」を、お米を「サッ」、水を「ジャッ」、スイッチを「ボン！」という擬音でアピール。量販店20店でマネキン試食販売（前年比8店増）のほか、28店で無洗米・にこまるコーナーを設置（同13店増）するなど積極的に商品をPRした結果、キャンペーン応募数は前年比141%と伸長。期間中の無洗米販売数量も前年比103%に増加しました。

キャンペーンにあわせて新商品「にこまる」の認知度向上と販売拡大に向けて試食会や特売企画提案活動を積極展開し、期間中の無洗米あらうまい「にこまる」の販売実績は前年同期比178%に拡大しました。

同社は無洗米を戦略商品と位置付け、精米売り上げ数量全体に占める無洗米比率も目標を30%に設定。松田社長は、「無洗米比率は27%と前年から2ポイント増加し堅

調に推移している。今後もキャンペーンや試食宣伝等を通じて利便性をアピールし、利用者拡大につなげたい」と話しています。

応募はがきには、「洗う手間がないので便利。続けて購入しています。特に冬は水が冷たいのでうれしい」「CMが面白く子どもがよく口ずさんでいます」「無洗米の時短・節水は助かります」などの声が寄せられていました。



▲抽選する松田社長（中央）

第29回ひめライス杯南海放送レディス卓球大会開催！

「第29回ひめライス杯南海放送レディス卓球大会」が、2月20日松山市の県総合運動公園体育館で開かれ、過去最大となる218組・436人がエントリーし熱戦を繰り広げました。

同大会は卓球女子ダブルスの大会では県内最大規模を誇る。今回は19歳から81歳までの選手が出場し、レベル別に5クラスに分かれ、日頃の練習成果を競いました。

最もレベルの高いAクラスを制した徳田明子・森まりなペア（所属＝伊予つばさ、伊予市）は、「この大会では初めてのペアでしたが、楽しく試合ができました」と笑顔を見せた。同クラスで優勝7回目の徳田さんは、「勝因は、賞品のお米を見ながらとにかく頑張ることかな（笑）。子どもたちを指導しながら、今後も楽し

く卓球を続けたい」と話していました。

㈱ひめライスは、スポーツを通じて愛媛のお米『ひめライス』をPRしようと同大会を応援。参加賞として無洗米『あらうま

い！』愛媛県産コシヒカリ1kgを提供したほか、副賞として、各クラス優勝の選手に「あらうまい！愛媛県産コシヒカリ」各10kg、3位以内の選手に『あらうまい！』各5kgを贈りました。



▲副賞のお米を手に喜ぶAクラス優勝の森（左）・徳田ペア

●第54回愛媛マラソン

走る広告塔としてPR

「第54回愛媛マラソン（湯ったりオレンジロード）」が、2月7日開催され、「ふれ愛・媛ポーク」生産者、JA全農えひめ職員や関係者など計31人が出場しました。

「ほのぼの媛ポークランナーズ」は、生産者と関係者など17人が『ふれ愛・媛ポーク』のロゴマーク入りユニフォームで出場し、走る広告塔として、沿道の方々にPR。全員が制限時間内に完走しました。JA全農えひめチームは13人が完走しました。



▲『ふれ愛・媛ポーク』チーム（右）とJA全農えひめチームの選手

今月の素材
ほししいたけ
乾椎茸



原木をじっくり乾燥、風味良い仕上げ
全農品評会も堂々、上位受賞の愛媛産！



▶(左後) 乾シイタケと豚団子のスープ、(右後) 乾シイタケとタコのアヒージョ風オイル焼き、(中) 乾シイタケと手羽先の中華煮

指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大佐古 正子先生

乾シイタケと豚団子のスープ

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約211kcal

乾シイタケ (小)	8個
水 (戻し汁)	400cc
豚ひき肉	240g
白ネギ (みじん切り)	1/3本
卵	1個
① ショウガ汁	小さじ1
薄口醤油	小さじ1
片栗粉	小さじ2
キャベツ	100g
ダシ	600cc
酒	大さじ1
② ミリン	50cc
③ 薄口醤油	小さじ1
塩	小さじ1/2

〈作り方〉

- 乾シイタケは一晩水につけて戻す。
- ポウルに①を入れ、よく混ぜ合わせる。
- キャベツは短冊切りにする。
- 鍋にダシ、酒、戻し汁を入れ、沸けば②を加えて加え、①を加えて弱火で炊く。
- 火が通れば、③と④を加えて、サッと火を通す。

乾シイタケと手羽先の中華煮

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約373kcal

乾シイタケ (小)	8個
水 (戻し水)	400cc
手羽先	8本
新ジャガイモ	2個
ニンジン	1/2本
フキ	1本
塩	少々
サラダ油	大さじ1
① ショウガ (みじん切り)	1カケ
② ニンニク (みじん切り)	1カケ
鶏ガラスープ	600cc
③ 砂糖	大さじ3
濃口醤油	大さじ2
④ オイスターソース	大さじ1
酒	大さじ2
水溶き片栗粉	大さじ2
ゴマ油	大さじ1

〈作り方〉

- 乾シイタケは水で戻す。
- 新ジャガ、ニンジンは一口大の乱切り。フキは塩茹でして冷水に取り、皮をむき3cm幅に切る。
- フライパンを熱し、手羽先を入れて両面焼いて取り出す。
- フライパンにサラダ油を熱し、①を入れて香りをだし、新ジャガ、ニンジン、②、③を炒める。
- ④に戻し汁と④を加えて煮込む。
- 新ジャガが柔らかくなり、煮汁が少なくなれば水溶き片栗粉でとろみをつける。
- 最後にフキとゴマ油を加え、全体を混ぜる。

乾シイタケとタコのアヒージョ風オイル焼き

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約194kcal

乾シイタケ (小)	8個
茹でタコ (足)	200g
スナップエンドウ	8本
塩	少々
オリーブオイル	大さじ4
ニンニク (スライス)	1カケ
輪切り唐辛子	5個
黒コショウ	少々
パセリ (みじん切り)	大さじ1

〈作り方〉

- 乾シイタケは水で戻し、半分に切る。
- タコは1.5cmに切る。スナップエンドウは筋をとり、半分に切る。
- フライパンにオリーブオイル、ニンニク、唐辛子を入れ、弱火で熱し、香りを出す。
- ①を炒め、②を加えて手早く炒め、黒コショウをふる。
- 器に盛りつけ、パセリをふる。

えひめ逸品柑橘
愛媛
かわちばんかん
河内晩柑
サイダー 期間限定

愛媛県
イメージアップキャラクター
みきゃん

柑橘王国「愛媛」の隠れた逸品をお届け

「河内晩柑」は品種が発見された熊本県にある河内町の「河内」と、遅い時期に採れる柑橘類の総称「晩柑」から名付けられました。爽やかな香りと味わいが特徴の河内晩柑果汁炭酸をお楽しみください。

河内晩柑は和製グレープフルーツと呼ばれてるんよ！

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

http://www.ehime-inryo.co.jp
(通販専用) http://www.pom-j.com

全国発送
承ります。

「愛」が隠し味。
えひめの



**えひめみかん
いよかんジュース**
参考組合員価格
2,420円(税込)
250g×30本/ケース

愛媛産の温州みかんといよかんの柑橘果汁をブレンドした飲みやすく体にやさしい果汁100%の飲みきりサイズの缶ジュースです。

**えひめみかんいよかん
ジュース**
参考組合員価格
2,080円(税込)
1,000ml×8本/ケース

愛媛産の温州みかんといよかんの柑橘果汁をブレンドした飲みやすく体にやさしい果汁100%ジュースです。

**えひめつぶみかん
いよかんジュース**
参考組合員価格
2,980円(税込)
1,000ml×8本/ケース

愛媛産の温州みかんといよかんの果汁にみかんの果粒(つぶつぶ)を加えた飲む果実感の果実分100%ジュースです。

**愛媛の味わい
柑橘100**
参考組合員価格
2,120円(税込)
1,000ml×6本/ケース

愛媛県産の不知火・いよかん・その他をブレンドした爽やかな味わいです。

**えひめの柑橘と
国産にんじん**
参考組合員価格
2,570円(税込)
1,000ml×8本/ケース

人参の甘さが生きた、愛媛県産の柑橘と国産人参のやさしい味わいです。

**愛媛の
不知火50**
参考組合員価格
2,160円(税込)
1,000ml×8本/ケース

愛媛県産の不知火を使用した果汁50%飲料、濃厚な甘味と程よい酸味です。

※宅配運賃について ●同一受注同一送付場所です5ケース以上の場合は配送運賃は無料です。 ●5ケース未満の場合は、ケース毎に500円(税込)加算します。

愛用運動期間 4月1日～8月31日

主催団体／JAグループ愛媛農畜産物消費拡大運動推進本部・県内各JA・JA愛媛中央会・JA全農えひめ
協賛団体／JAえひめ女性組織協議会・愛媛県農協青壮年連盟・愛媛県果樹同志会・愛媛県果実生産出荷安定協議会・
愛媛県茶業振興協議会・JA愛媛県信連・JA共済連愛媛・JA愛媛厚生連・愛媛県酪連・JA愛媛施設連



環境に配慮した植物油インキを使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。